

第2回 国有林モニターアンケート 結果概要

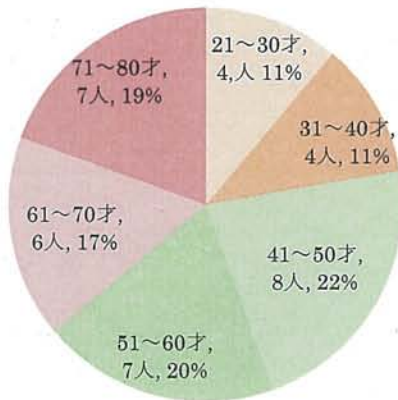
国有林モニター制度は、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、広く一般から国有林モニターを募り、国有林野事業についての理解を深めていただくと同時に、国有林野事業についての幅広いご意見等をいただき、これらのご意見を管理経営に役立てることで、「開かれた国有林」にふさわしい管理経営を行うことを目的としています。

今回、第2回国有林モニターアンケートを実施し、国有林モニター36名中34名の方からご回答をいただきましたので、その結果について報告します。

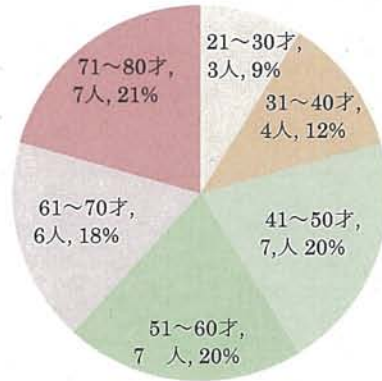
平成24年11月

国有林モニター基本情報

〈年齢層別割合〉

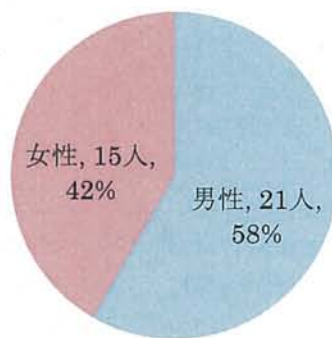


国有林モニター（36人）

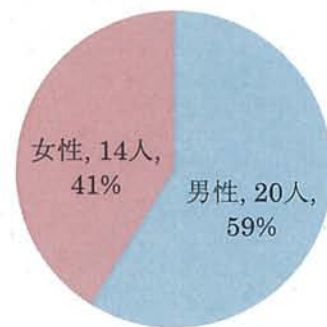


第2回アンケート回答者（34人）

〈男女別割合〉



国有林モニター（36人）

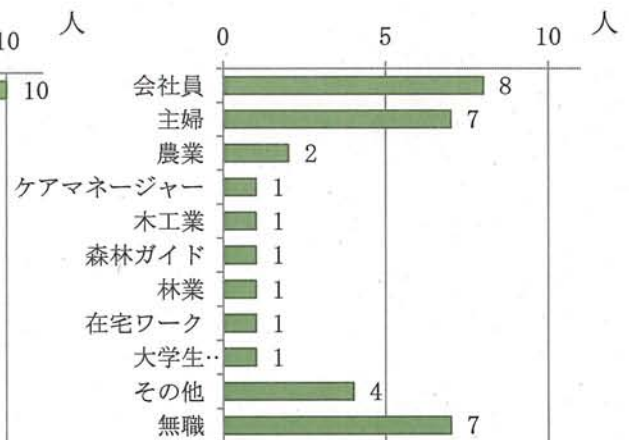


第2回アンケート回答者（34人）

〈職業〉



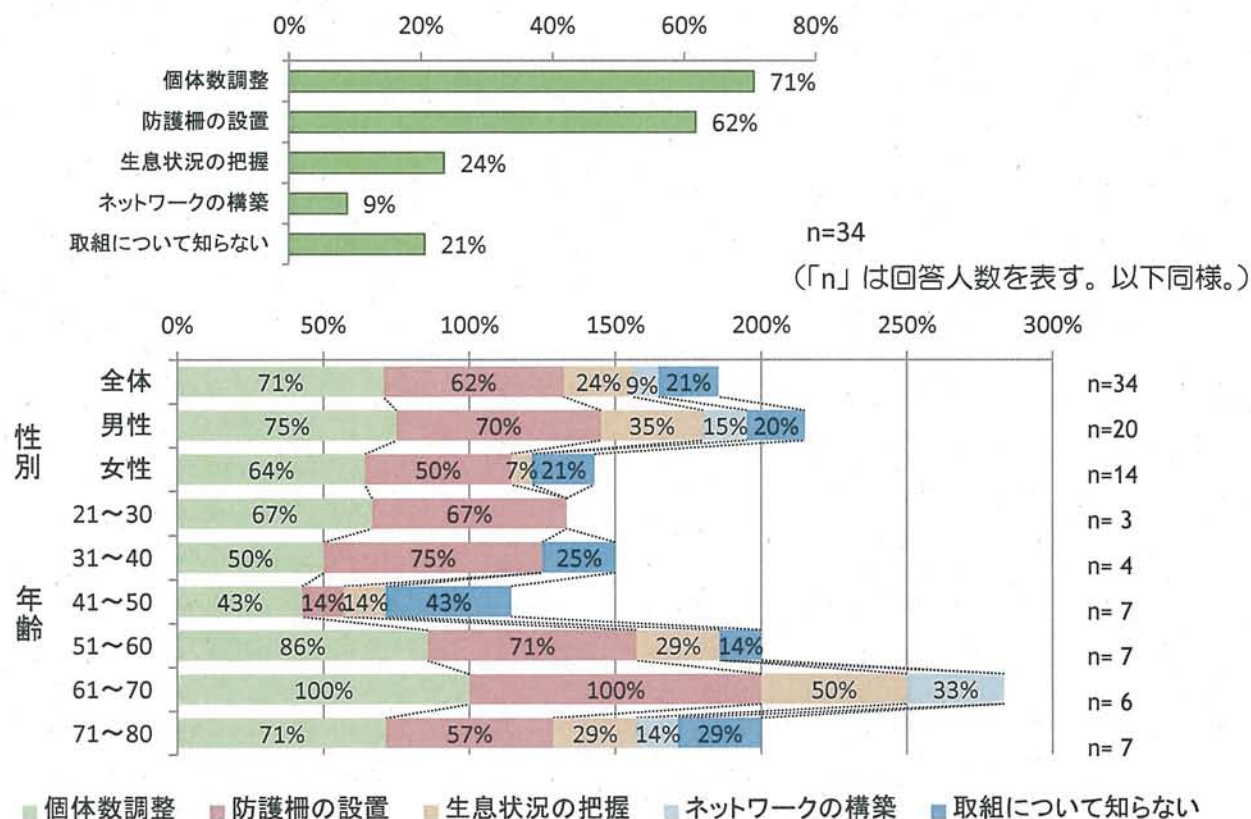
国有林モニター（36人）



第2回アンケート回答者（34人）

野生鳥獣との共生への取組について

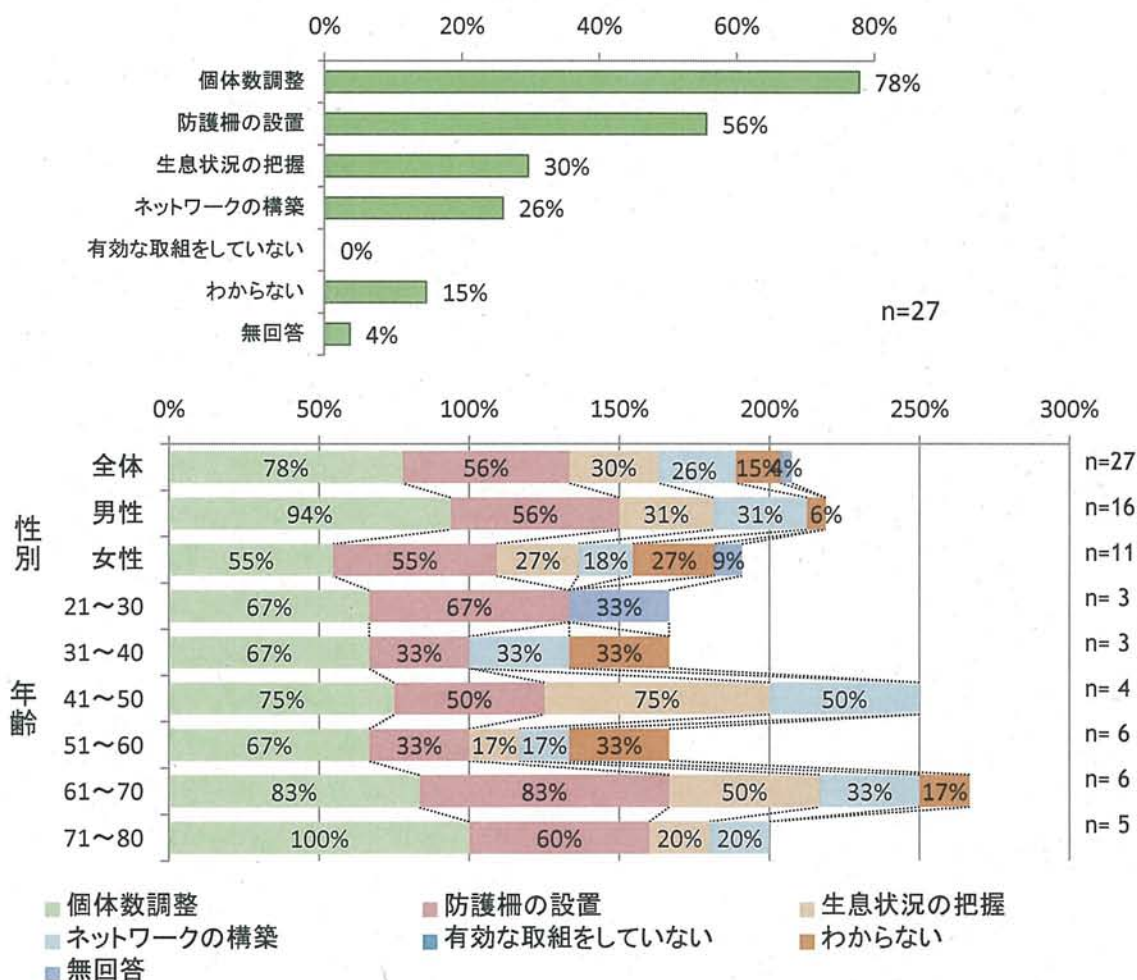
問1 ニホンジカ対策として中部森林管理局が行っている取組について知っている取組。(複数回答)



(結果)

中部局のニホンジカ対策の取組を知っている方は79%だった。知っている取組として、罠いワナ等による個体数調整(以下、「個体数調整」という。)は71%、高山植物を保護するための防護柵の設置(以下、「防護柵の設置」という。)は62%となりともに認知度が高かった。性別では、個体数調整について男性75%、女性64%となり認知度が高かった。年齢層については、61~70才の全員が個体数調整及び防護柵の設置について知っていた。また、モニタリング調査による広域での生息状況の調査(以下、「生息状況の調査」という。)及び、獣害情報の共有化のためのネットワークの構築(以下、「ネットワークの構築」という。)は、21~30才で認知している方が皆無であったことが特徴的であった。

問2 ニホンジカ対策として中部森林管理局が行っている取組の中で有効と思われる取組。(問1で知っているとは回答された方を対象、複数回答)



(結果)

中部局のニホンジカ対策の取組の中で、有効と思われる取組として最も多かったのは、個体数調整で78%だった。性別では、男性94%、女性55%と男性、女性ともに個体数調整について多くの方が有効であると回答した。年齢層については、71~80才の全員が個体数調整を有効な取組として認識していること、21~30才で生息状況の把握及びネットワークの構築が有効な取組との認識をしている人が皆無であったことが特徴的であった。

問3 上記の取組以外に有効と思われる取組。(一部抜粋)

- ・迷路のように入ったら出られない通路の作製。
- ・ワナと射殺を組み合わせることで効果がでるのではないか。
- ・ニホンジカの食べ物がなくなっているという事だと思うのでそれを増やす。

- ・麻酔銃で捕獲して、不妊治療を施し、識別できる様にして山に返す。
- ・犬を訓練し、シカを追い払う。
- ・ロボットを活用する。
- ・囲いワナにシカが警戒する匂いがなく、強固で折れない加工をした間伐材を利用する。
- ・ニホンジカの食害に遇う高さ2mから3m以下の樹皮にシカの嫌う匂いの強い薬品か塩化ビニール等で巻き、それにシカが怖がる動物の目玉を描いた模様をプリントする。
- ・富士山の国有林で取り組んでいるシャープシューティング（餌付けによる誘因狙撃法）

問4 ニホンジカ対策についてのご意見、ご質問等。（一部抜粋）

（質問）

- ・駆除によりニホンジカの絶滅のおそれはないのか。
- ・保護と駆除のバランスを保つための個体数の計算方法があるのか。
- ・モニタリング調査により把握したデータの具体的な活用方法は。

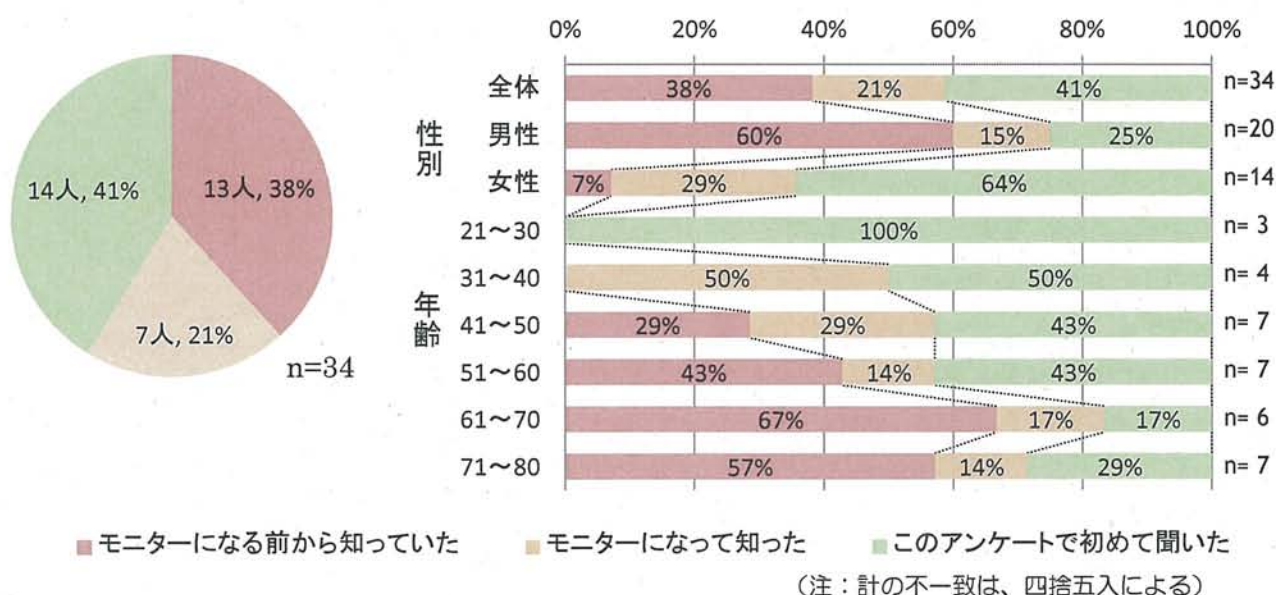
（意見等）

- ・広範囲に及ぶ山地帯では、ニホンジカの生息数調査は限界があると思う。高山植物など自然環境への被害が顕著な地域は駆除するしかない考える。
- ・近年山里や農作物の鳥獣被害は深刻で悩ましい問題と思う。
- ・人的要因により増加した動物を殺すことに抵抗がある。
- ・ニホンジカ対策の基本は個体数の調整であり、そのために有効かつ効率的な捕獲技術を早急に開発する必要があり、同時に、シカの生息状況や行動パターンの把握、ネットワークの構築により総合的な対応をするしかない。
- ・共生というむずかしい取組のため、みんなが悩み、人のため、ニホンジカのため答えをさがし続けていくしかない。
- ・個体数を減らす以外の有効な方法はないと思う。食用にできればよいが、山から持ち出すのは現実的に難しいのではないか。
- ・浅間山の群馬県側から長野県側にシカが入ってきて、最近、シカの嫌いな植物（マルバダケブキなど）が増えている。群馬県との共同作業を進めて欲しい。
- ・高齢化による狩猟免許者の減少が問題。組織的な狩猟者教育、人材確保が必要ではないか。また、狩猟免許取得への補助制度を策定してはどうか。
- ・防護柵では囲われた範囲内は食害などはないが、柵外は大変被害が大きい（霧ヶ峰や麦草峠など）。個体数を雄雌等考えず思い切った減少策を猟友会の協力を得て実施し、捕獲後の買上げ（高価）で会員の意欲の向上に努める。
- ・中部以外の他の地域で行っている対策等を参考にする。

- ・積極的に個体数を調整し、捕獲したニホンジカを食肉利用のみならず革製品、薬用、観光資源として利活用する。ただし、食品衛生法、条例との兼ね合いや採算の事を考慮すると自治体が主導するべきである。このような利用を促進することがフードマイレージの減少につながり、国としての本当の自立を促す。
- ・実際にシカは見たことがないのでピンとこない。
- ・名古屋市ではニホンジカによる森林被害の深刻さは知られていない。森林管理局及び市町村はシカによる森林被害の深刻さを中部森林管理局エリアの市民に広く知ってもらう必要がある。

巡視等による高山植物保護等の取組について

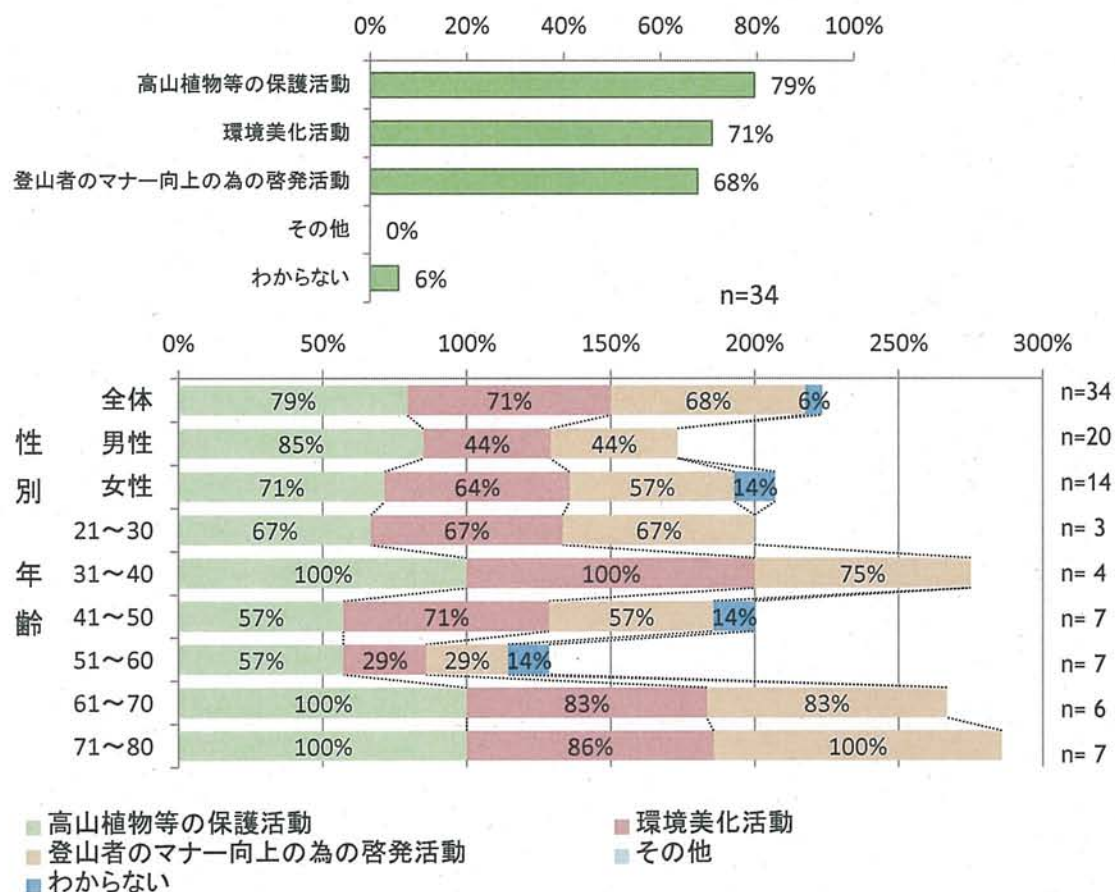
問5 グリーンサポートスタッフ（以下、「GSS」という。）を知っていましたか。



(結果)

GSS をモニターになる前から知っていた方は、38%（13 人）で、性別では、男性 60%、女性 7%と差が見られた。年齢層については、61～70 才でモニターになる前から知っていた方が 67%と高く、21～30 才では、アンケートで初めて聞いた方が 100%となったように、年齢層が上がるにつれて、GSS 活動を知っている方が多い傾向にあった。

問6 GSS の主な活動のうち、今後も引き続き行って欲しい活動。



(結果)

GSS に今後も引き続き行って欲しい活動としては、高山植物等の保護活動(79%)及び環境美化活動(71%)が高く、性別では、高山植物等の保護活動が男性 85%、女性 71%となり、ともに高かった。年齢層によって大きな違いは見られなかった。

問7 GSS の活動へのご要望等。(一部抜粋)

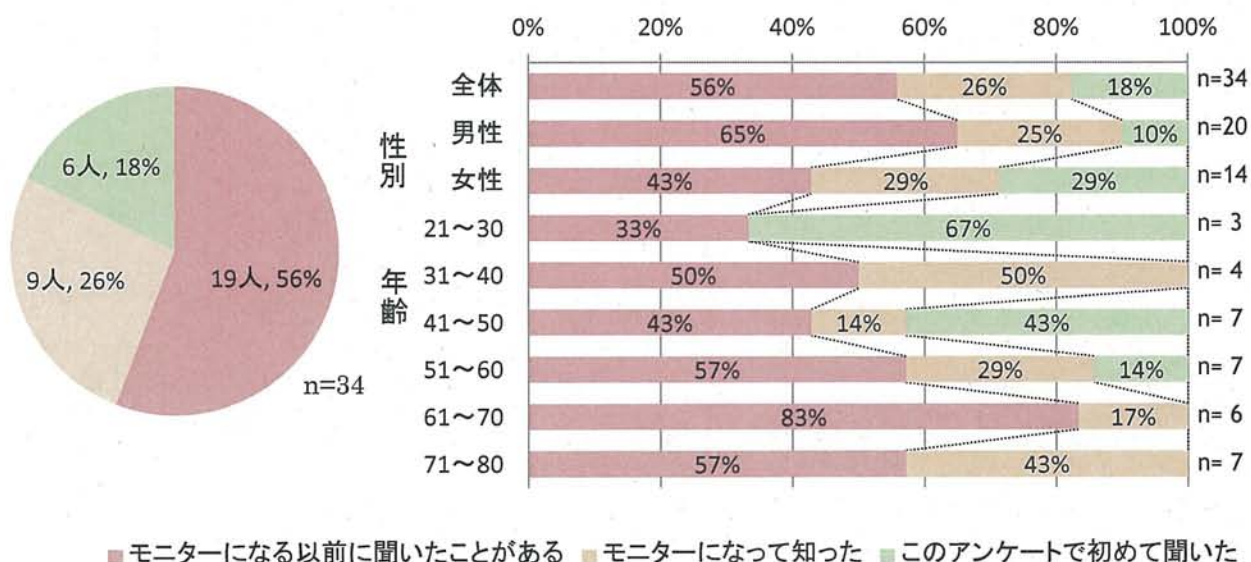
- ・子供たちへの啓発活動として、小学生の学校登山の前に出張講座、小学校や中学校など教育現場で出張授業などを行う。
- ・GSS の活動は非常に大切に不可欠であると思う。
- ・高山植物の標示の設置。
- ・シカ対策として音を出す装置の設置。
- ・国有林モニターでも参加できる項目があれば参加協力したい。
- ・ゴミ拾い登山を 20 年前からしているが、当時と比べて近年はゴミは少なくなっているように思う。それでも高山植物への人による負荷は増えているので、

その部分は力を入れる必要がある。

- ・立入禁止地域への立ち入りや動植物等の採取者への反則金的な処罰のできるように法改正する。
- ・国有林内の禁漁区での魚釣り、テントを張ったキャンプ等が目立ちはじめますが、注意してもあまり聞いてもらえない。
- ・取り組みについての広報活動がもっと必要ではないか。
- ・山火事や不法投棄等の未然防止の為に巡視も続けてもらいたい。そして、いつまでも、高山植物を多く見られる美しい山であって欲しい。
- ・登山者のマナーが悪くなっていると思う。年に何回か大勢で対処する指導日のようなものを設定しマナー向上の啓発を図る。
- ・私自身もゴミなど出さないように気を付けたい。

森林とのふれあいの場の提供に対する取組について

問 8 「レクリエーションの森」という言葉を聞いた事がありますか。



(結果)

「レクリエーションの森」について聞いたことがある方は 56% (19 人) で、性別では、男性 65%、女性 43%と差が見られた。年齢層については一定の傾向は見られなかった。

問9 「レクリエーションの森」を利用するときどのような情報が欲しいか。

(一部抜粋)

(欲しい情報)

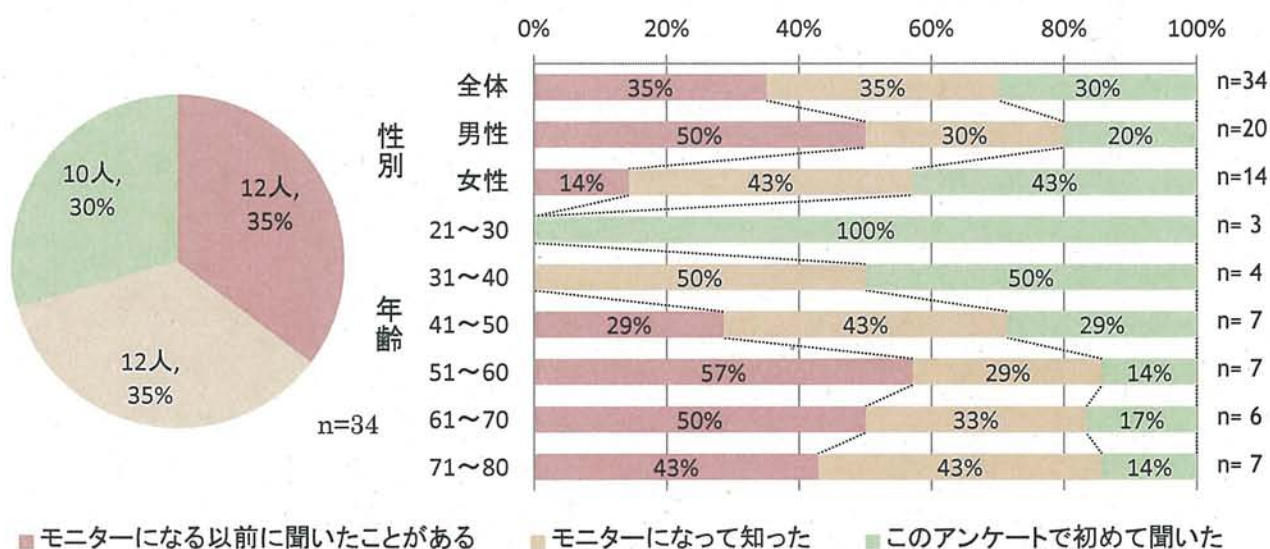
- ・ 詳しいアクセス情報（幹線道路などの主要ポイントからの距離、時間。路線バスで何分となっているものについて、具体的な名前（路線名、停留所名など））。
- ・ 利用者の感想及。 ・ FFG の提供しているサービス。
- ・ 宿泊施設の有無。 ・ 料金表及び施設近隣の様子（公共施設、温泉、食事処）。
- ・ イベント情報。 ・ 特産品、名物等
- ・ 駐車場の有無・台数・料金。 ・ トイレの有無・場所。

(要望等)

- ・ ホームページを見る事が出来ない人に対する広報が必要ではないか。新聞、パンフレットや放送。既に発行している広報や RINYA（林野）に掲載する。
- ・ 中部森林管理局のホームページに目を向ける為の対策が必要。
- ・ かなり山中にあることが多いので1 kmごとに「〇〇まであと何km」というような標識が欲しい。
- ・ ホームページで「レクリエーションの森」は見付けにくい。「レクリエーションの森」をホームページ TOP にもってきてはどうか。あるいは、「森林への招待状」は固い。見付けやすくする為にイベント、レクリエーションなど遊びをイメージする目次にしてはどうか。

森林づくり活動等のフィールド提供の取組について

問10 (1) 「ふれあいの森」の取組を聞いたことがありますか。



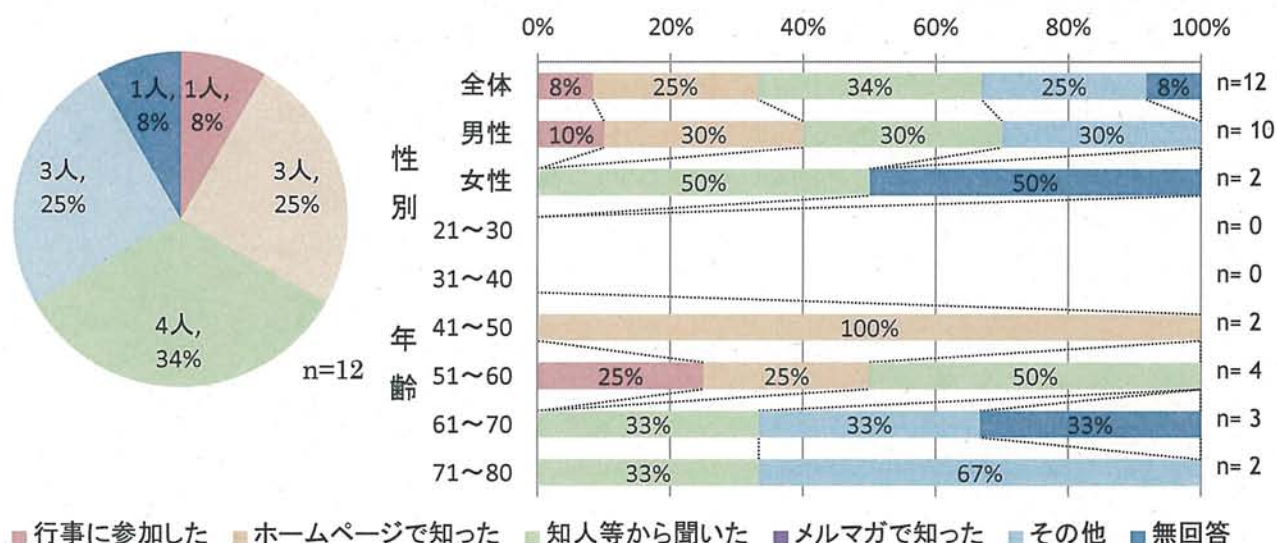
(注: 計の不一致は、四捨五入による)

(結果)

「ふれあいの森」の取組を聞いたことがある方は、32% (11 人) で、性別では、男性 45%、女性 14%と差が見られた。年齢層については、年齢層が上がるにつれて承知している傾向が見られた。

問10(1)-2 「ふれあいの森」をどのような方法で知りましたか。

((1) で「モニターになる以前に聞いたことがある」と回答された方)

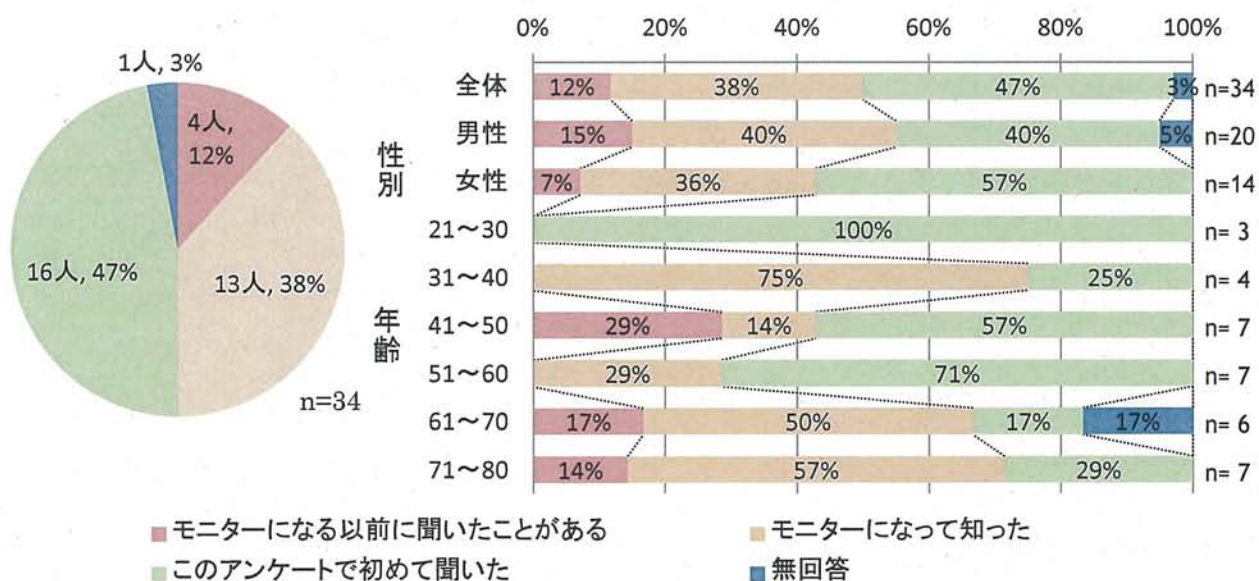


(結果)

(注：計の不一致は、四捨五入による)

「ふれあいの森」を知った方法は、知人等34% (4人)、ホームページ25% (3人)、行事参加8% (1人)、その他 (新聞、チラシ、テレビ、看板) 25% (3人) となった。性別による傾向は見られなかった。年齢層については、41-50才で100% (2人) がホームページによる承知だった。

問10(2) 「遊々の森」の取組を聞いたことがありますか。

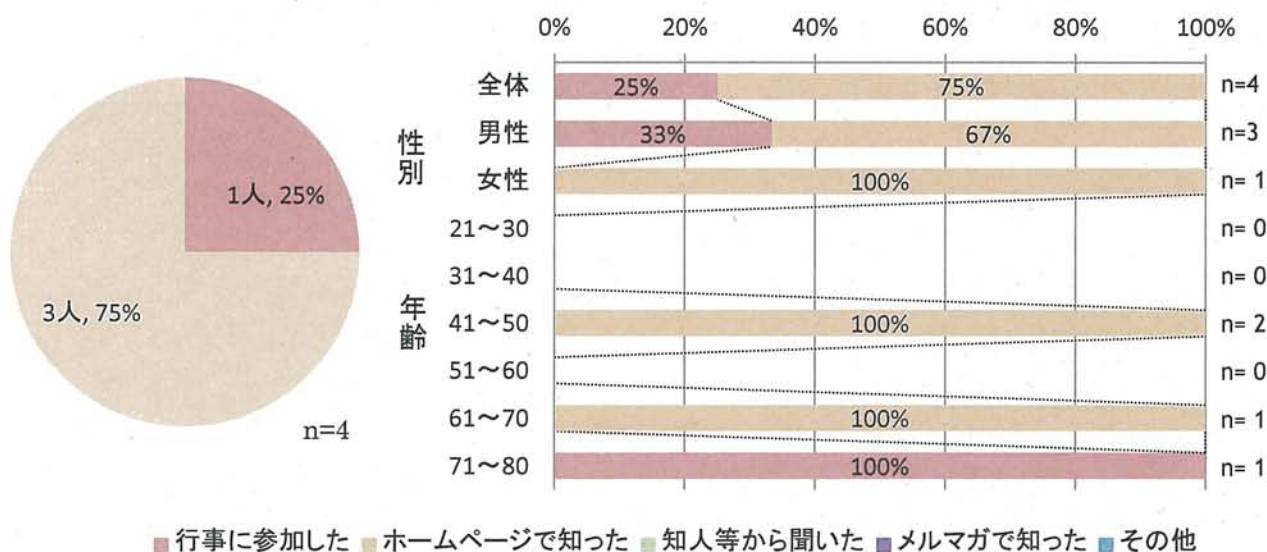


(結果)

「遊々の森」の取組を聞いたことがある方は、12% (4 人) で、性別では、男性 15%、女性 7%となり、認知度が低い状況だった。年齢層による傾向は見られなかった。

問10(2)-2 「遊々の森」をどのような方法で知りましたか。

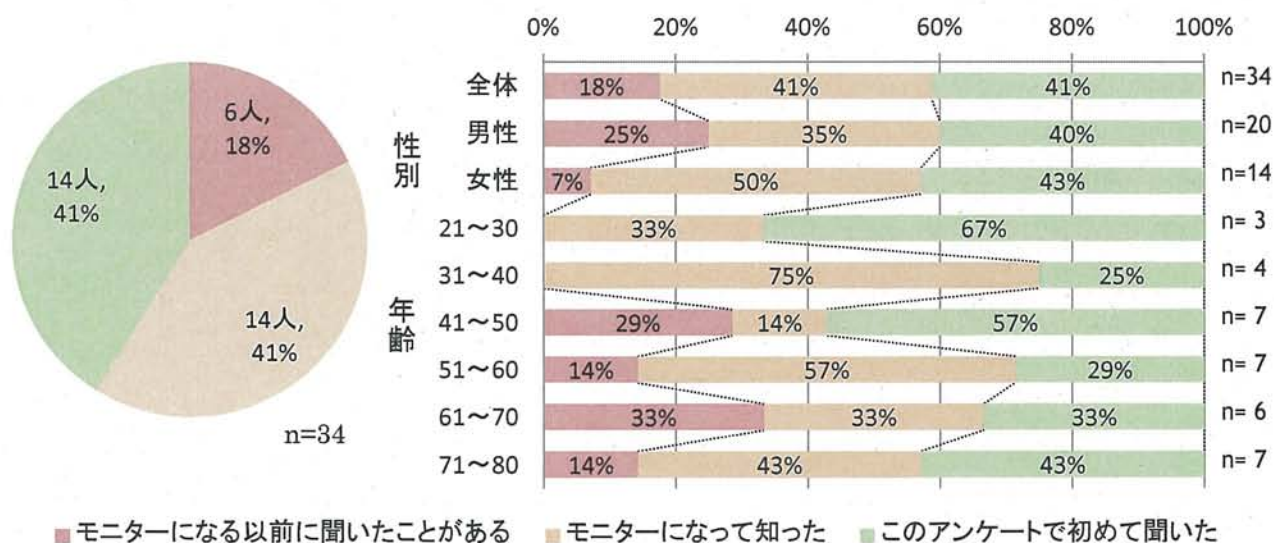
((2)で「モニターになる以前に聞いたことがある」と回答された方)



(結果)

「遊々の森」について知った方法は、ホームページで知った方がほとんどで、口コミや行事から情報を取得した方が少ない傾向にあった。

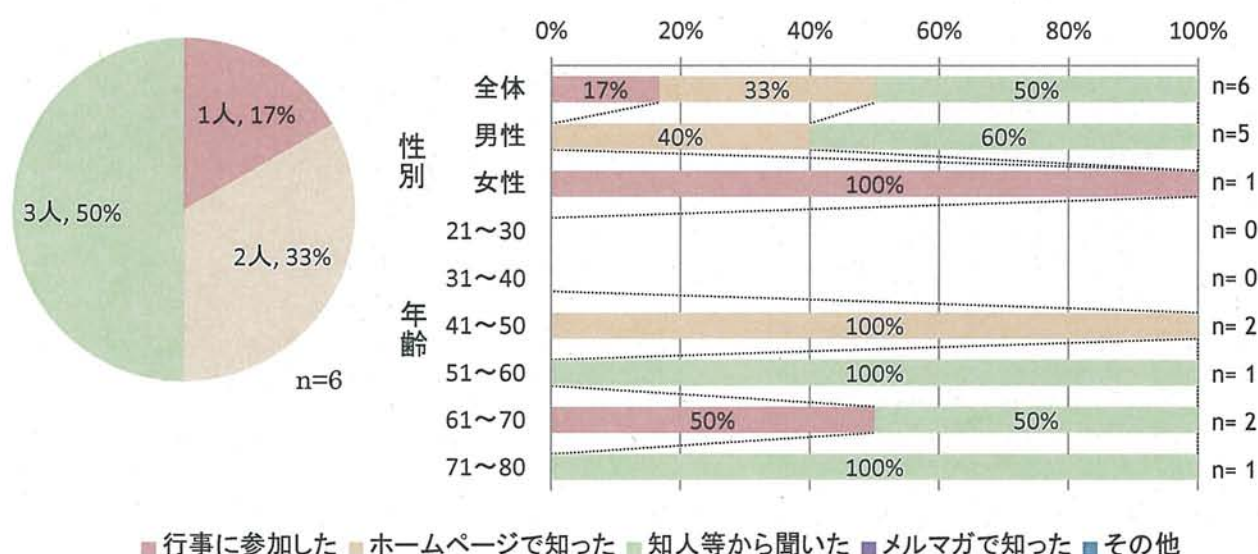
問10(3)「名古屋シティーフォレスト事業」の取組を聞いたことがありますか。



(結果)

「名古屋シティーフォレスター事業」の取組を聞いたことがある方は 18%(6 人)で、性別では、男性 25%、女性 7%となり認知度は低い状況だった。年齢層による傾向は見られなかった。

問 10 (3) -2 「名古屋シティーフォレスター事業」をどのような方法で知りましたか。((2) で「モニターになる以前に聞いたことがある」と回答された方)



(結果)

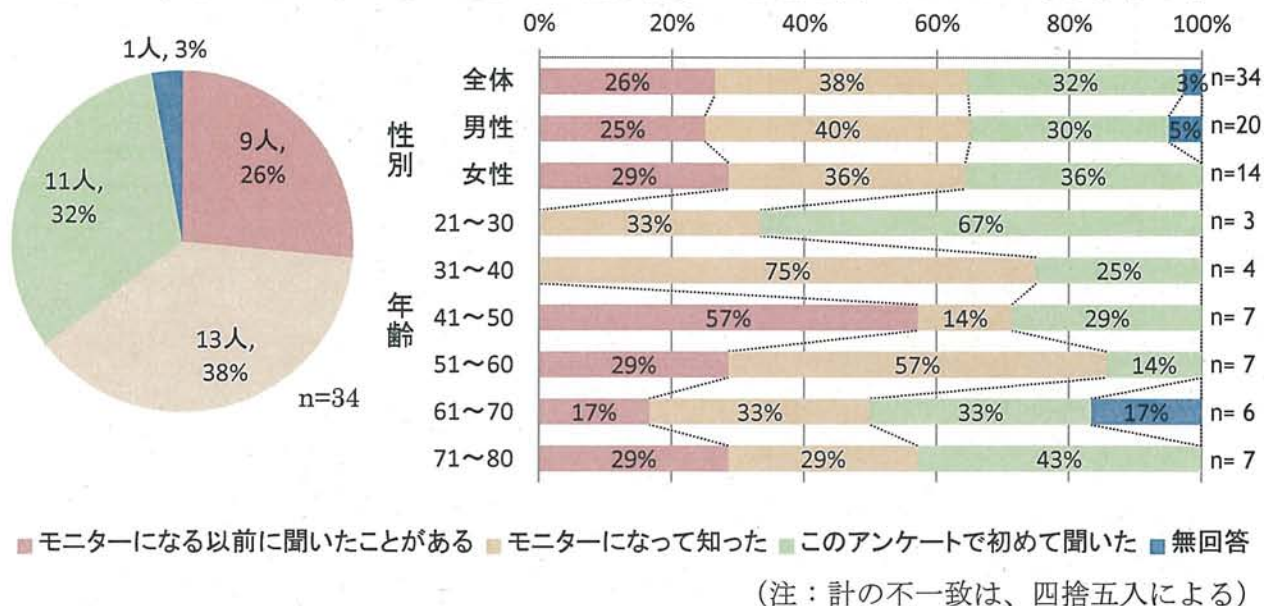
「名古屋シティーフォレスター事業」を知った方法は、知人等が 50%で、同様に認知度が低い「遊々の森」と比べ、口コミによる情報の取得が多い傾向にあった。

問 11 森林づくり活動等のフィールド提供の取組についてご要望等。(一部抜粋)

- ・国民の参加を促すために、facebook とかツイッターを使えばいいと思う。また、市町村の広報や PTA 新聞やタウン誌にイベントが掲載されると良い。
- ・ネーミングも含め PR 方法が十分ではない。ネーミングだけで連想すると「レクリエーションの森」「ふれあいの森」「遊々の森」の区別がつかない。
- ・良い取り組みだと思うので継続して欲しい。
- ・身近で参加出来るボランティア活動があれば参加したい。

森林環境教育の推進への取組について

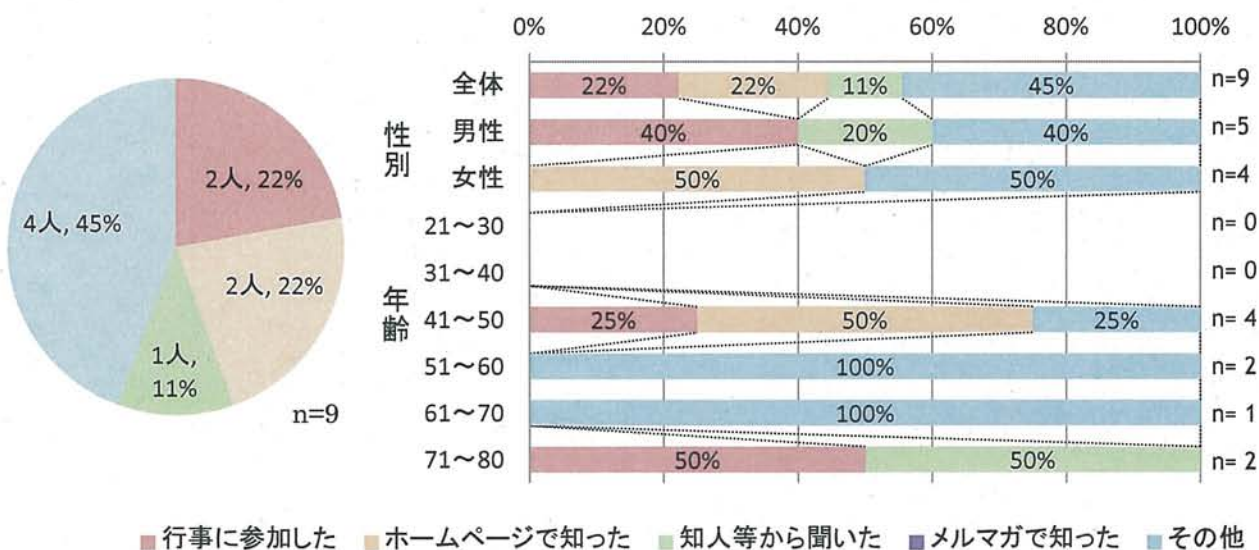
問12(1) 「小学生等に対する出前教育」の取組を聞いたことがありますか。



(結果)

「小学生等に対する出前教育」の取組を聞いたことがある方は、26% (9人) となり認知度は低い状況だった。性別及び年齢層による傾向は見られなかった。

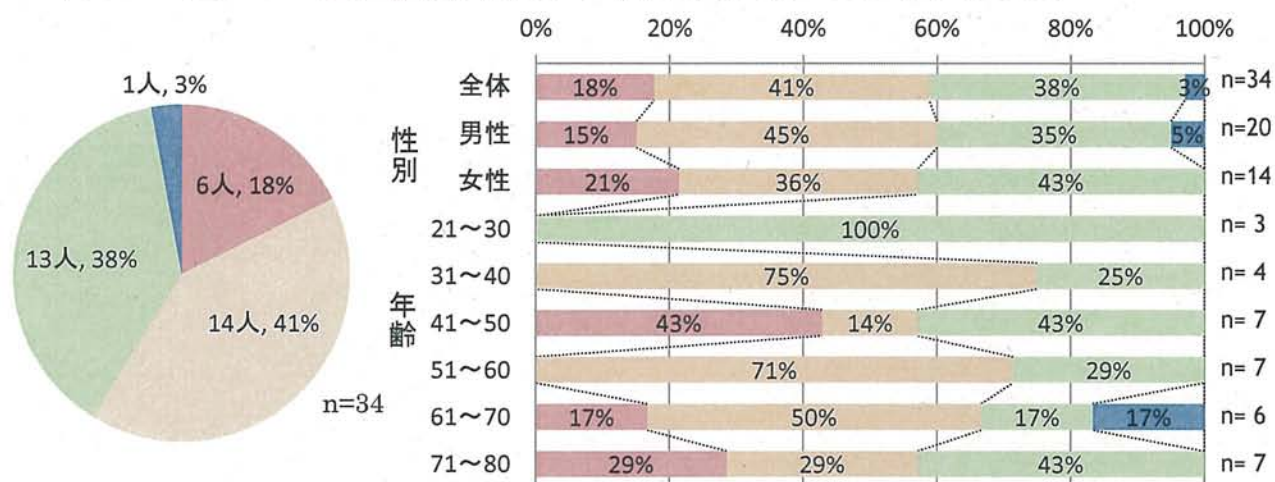
問12(1)-2 「小学生等に対する出前教育」をどのような方法で知りましたか。
((1) で「モニターになる以前に聞いたことがある」と回答された方)



(結果)

「小学生等に対する出前教育」を知った方法は、その他で知った方が45% (4人) で、その他の内容は、富山県フォレストリーダーに属して同様の活動を行っている、地元ミニコミ誌、新聞などであった。性別及び年齢層による傾向は見られなかった。

問12(2) 「親子森林探検隊」の取組を聞いたことがありますか。



■ モニターになる以前に聞いたことがある ■ モニターになって知った ■ このアンケートで初めて聞いた ■ 無回答

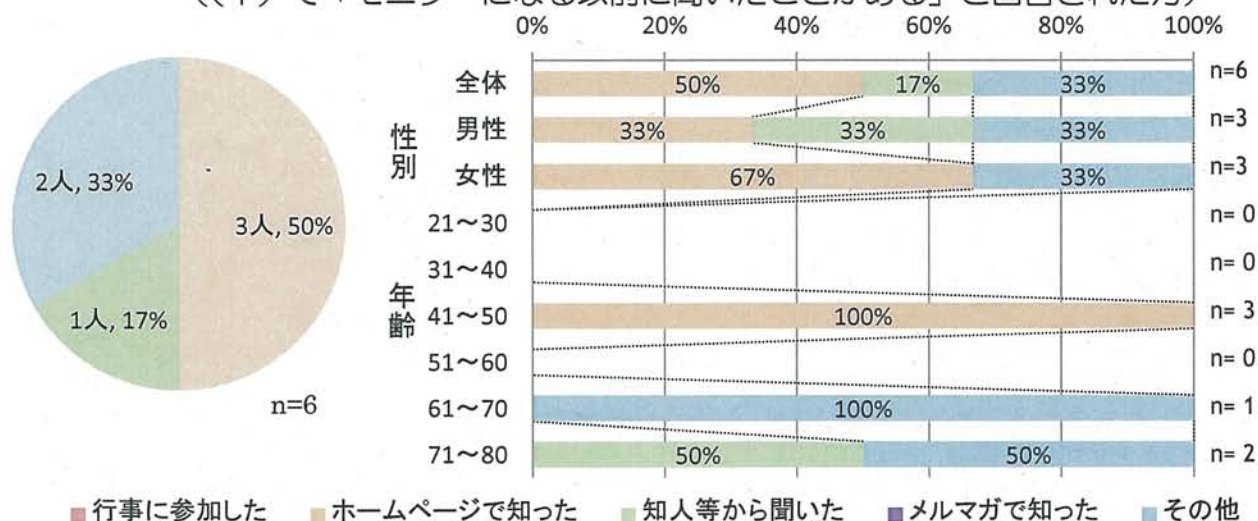
(注：計の不一致は、四捨五入による)

(結果)

「親子森林探検隊」の取組を聞いたことがある方は、18% (6人) で認知度は低い状況だった。性別及び年齢層による傾向は見られなかった。

問12(2)-2 「親子森林探検隊」をどのような方法で知りましたか？

((1) で「モニターになる以前に聞いたことがある」と回答された方)

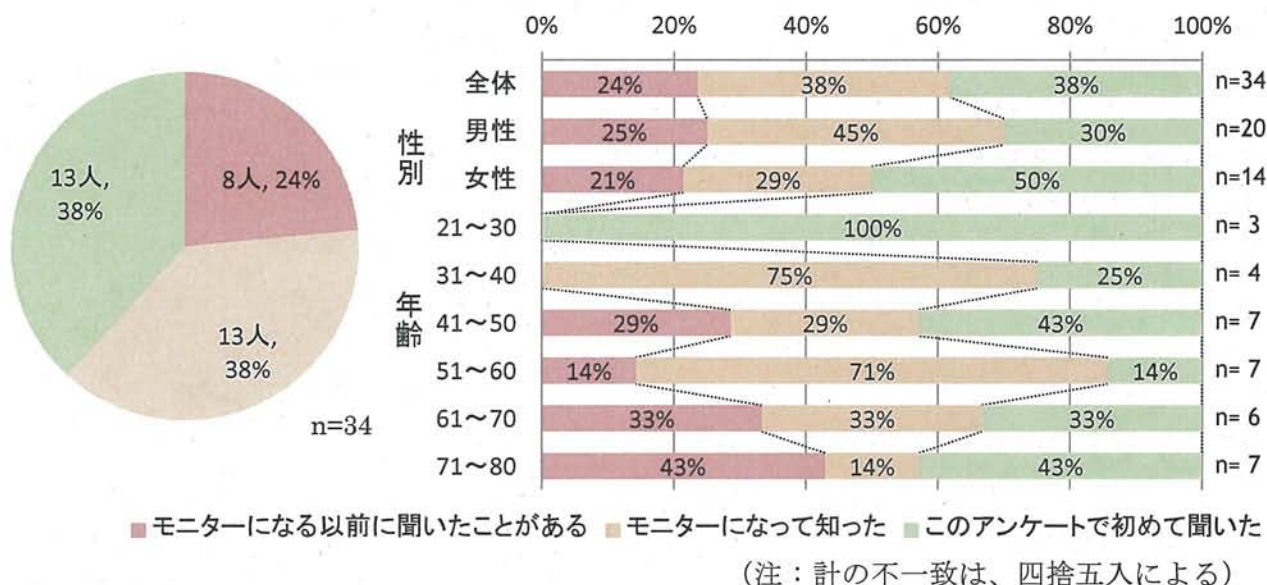


■ 行事に参加した ■ ホームページで知った ■ 知人等から聞いた ■ メルマガで知った ■ その他

(結果)

「親子森林探検隊」を知った方法は、ホームページで知った方が50%(3人)で、性別では、男性33%、女性67%と差が見られた。年齢層については、41-50才ではホームページで承知したが、高い年齢層では、知人等やテレビの放映により承知していた。

問12(3) 「森林ふれあい講座」の取組を聞いたことがありますか。

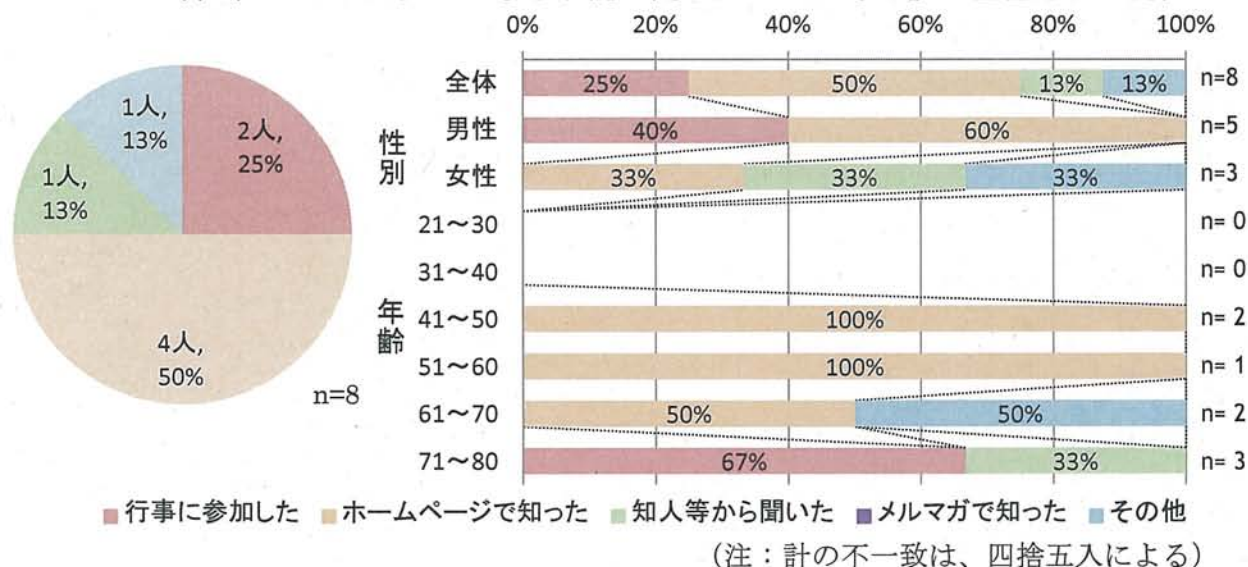


(結果)

「森林ふれあい講座」の取組を聞いたことがある方は、24%(8人)で認知度は低い状況だった。性別による傾向は見られなかった。年齢層については、年齢層が上がるにつれて承知している傾向が見られた。

問12(3)-2 「森林ふれあい講座」をどのような方法で知りましたか。

((3)で「モニターになる以前に聞いたことがある」と回答された方)



(結果)

「親子ふれあい講座」を知った方法は、ホームページで知った方が 50%(4 人)で、性別では、男性 60%、女性 33%と差が見られた。年齢別では、41-70 才の多くはホームページにより承知し、71-80 才は行事や知人等により承知していた。

問 1 3 森林環境教育の推進への取組に対する要望等。(一部抜粋)

(質問)

- ・学校の授業の中で正課の授業として取り入れられているのか。

(要望等)

- ・参加出来る人数の増加、参加できる対象を拡大が必要。
 - ① みどりの少年団を組織している学校以外にも管内の小・中学校へ積極的な働きかけが必要。
 - ② 親子や教職員だけでなく、幅広い国民を対象にして欲しい。
- ・学校で知らなかったり、取組に消極的だったりすると思う。管理局の方で学校の方へ積極的に呼びかけていくと良い。
- ・夏休みの課外事業として森林環境教育は必須にすべきである。
- ・林間学校のような森の中で体験する企画を進めて欲しい。
- ・木のおもちゃづくりが各地で行われると良い。
- ・次世代へ向けた啓発活動であり、学習としても貴重である。今後も積極的に取り組んでいただきたい。
- ・小中学生の親に対する森林環境教育の取組の情報発信が不足している。家庭で親子が森林に親しむ情報を提供。

その他意見・要望

問 1 4 その他、「国有林」や「国有林の管理経営」などについてご意見ご要望や質問事項等。(一部抜粋)

(質問)

- ・森林管理局と各森林組合とどのように連携しているか知りたい。我々に最も近い組織である森林組合と住民にも分かるような連携をして、林業の振興をはかって欲しい。
- ・森林資源が成熟し、利用の段階を迎える中での森林・林業の再生に向けて森林の政策的な活用が求められるとありますが、短期的或いは中長期的に展望される姿、或いは森林の有り様はどういったものになるのか。
- ・木質バイオマス発電で国有林の活用がどのように具体化しているのか教えて頂きたい。

たい。

- ・最近、国有林の枯死木が年々増えていますが、このままでいいのですか。8月に御嶽山に田の原より登山したが、駐車場の周辺の枯死木がすごく目についた。(要望等)
- ・国有林に対する国民の関心や意識を高めるイベントなどをもっと実施してほしい。
- ・一般会計化により林野庁も変革されていくが、本当の意味での事業や整備について確実に推進していただきたい。
- ・木材の利用について、国民などの意見も取り入れ国産材の大切さをアピールしてもらいたい。
- ・企業や地域が森林保護や育成活動に取り組んでいる記事等をもって、より多くの一般市民や企業、経営者協会等へ出向き働きかけをして欲しい。
- ・4年後長野県で開催される植樹祭を国有林を多くの人に知ってもらおうチャンスとして生かして欲しい。
- ・森林を積極的に活用する事により、地方と都市の格差(経済、インフラ等)を是正することもでき、雇用が発生し地方の活性化につながります。先月(6月)のモニター会議でペレットストーブ普及の意見を申し上げた際に、「(今)ペレットストーブでもうかるのは業者だけ」という回答でした。このような消極的な考えではなく、木質バイオマスを将来の我が国の主エネルギー源に持って行くという位の気概を林野庁スタッフの皆さんには持って頂きたい。ペレットストーブも大いに普及すれば競争により価格は下がります。
- ・国土全域に亘る広域の対策には、民間と連携・分担して行う共同施業体制を今後も強力に推進していくと共に、民間との垣根を越えての協力体制をスムーズに、かつ大胆に実施できるような制度改編が重要不可欠な課題とも思う。また、そのための地公体との調整も密に進めてゆくべきと考える。
- ・国と住民が一体となって資源を守って行く為には、林野庁や中部森林管理局で実施されている施策を一般の国民にも知って貰う”広報活動”も大切な事と感じる。お金のかからない効果的な手段で森林愛護の精神が浸透し自然資源が後世に引き継がれて行く事を願う。

まとめ

今回のアンケートでは、森林・林業再生に対する関心が高く、国有林の管理経営や林業の再生に向けた取組、PRの方法等幅広いご意見をいただきました。

中部森林管理局では、引き続き中部森林管理局の取組等に理解を深めていただけるよう努めるとともに、今後も皆様からのご意見の把握に努め、皆様の貴重なご意見を参考にしながら、業務の改善を進めて参ります。